

国際赤十字赤新月社連盟（IFRC） ジュネーブ事務局での活動報告

看護師 川瀬 佐知子

派遣期間：2025 年 4 月 17 日～2025 年 9 月 18 日

派遣先：スイス連邦、ジュネーブ

2025 年 4 月から 5 か月間、スイスのジュネーブにある国際赤十字・赤新月社連盟事務局で、緊急保健要員として活動しました。普段の臨床業務とは異なりデスクワークや会議が中心でしたが、組織をこれまでとは違う角度から見る貴重な機会となりました。事務局での活動について報告します。

IFRC 事務局は、世界 191 の国と地域にある赤十字・赤新月社の活動を支え、災害などの緊急時には全体をまとめるコーディネーターの役割を担っています。私が所属した「緊急保健チーム」は、医療や公衆衛生の専門家で構成され、災害時に迅速かつ円滑に活動できるような体制づくりや感染症流行への対応などを行っています。

主な任務の一つが、緊急対応ユニット（ERU）における「ハーモナイゼーション（調和・標準化）」の強化でした。大規模災害の発生時には、複数の国の赤十字社が協力して活動を行います。活動の手順書やツールをあらかじめ標準化しておくことで、現場での活動をよりスムーズに進めることが目的です。私は日本、カナダ、ドイツ、フィンランドなど、医療チームを持つ複数の国の赤十字社と協力し、この手順書作りや調整を行いました。例えば「トリアージ」一つとっても国によって方法が異なるため、合意に至るまでに何度も協議を重ねる必要がありました。約 30 個の医療手順書は完成間近となり、次の要員に引き継ぐこととなりました。

緊急医療支援の質の担保のため、WHO の「緊急医療チーム（EMT）の分類と最低基準」に則って各国がチームを整備することが求められています。赤十字もその最低基準に則って各国赤十字社の緊急支援チームの認証作業を行っており、私は認証作業のサポートを担っていました。私がジュネーブ滞在中は、フィンランド赤十字社とトルコ赤新月社が認証作業の準備段階にあり、その支援のため現地を訪問しました。緊急支援に必要な資器材の調達状況（テント、ベッド、医療機器類など）、医療従事者の人数やトレーニングの受講状況、手順書の整備状況など、詳細を一つ一つ確認していきます。各赤十字社から最低基準に関する様々な質問があり何度も資料を読み返したり同僚と確認を繰り返す日々でした。戸惑いもありましたが、これらの活動を通じて将来現場で共に活動する可能性が高い他国のスタッフと顔の見える関係を築けたことは、大きな財産となりました。

公衆衛生に関する任務として、活動報告書の見直しを行いました。緊急支援では随時進捗を確認し、活動の継続や修正の判断を行わなければなりません。例えば感染症の流行時には、支援開始後に患者数・感染率・死亡率がどのように変化したのかを報告書に記載する必要があります。しかし、これまでの報告書はナラティブでの記載が多く、具体的な効果や課題が把握しにくいという問題がありました。そこで、活動内容を数値で見える化し、データに基づいた意思決定ができるような仕組みづくりに取り組みました。必要なデータの抽出や報告書のテンプレートの作成は完了し、次期要員に引き継ぎました。

IFRC 事務局での活動は初めての経験でしたが、担当部署を超えて様々な部門・専門家と関わることができ、組織の理解が深まるとともに、ネットワークの構築にも繋がりました。国際ガイドラインの策定に関わる機会もいただき、世界規模での赤十字の役割を肌で感じる事ができました。この貴重な経験を今後の活動に活かしていきたいと考えています。

フィンランド出張



トルコ出張



オンライン会議



緊急支援チーム

